

神宿る熊野

～魂を昇華させる地質遺産～

『熊野は自然が造った聖地である』との評価があります。

熊野の自然の中にたたずむと「神が宿る」という思いに至る、そんな力を熊野の大地が持っているのだという人もいます。日本人は、古来、森林に覆われた峻厳な山岳や岩塊、滝や巨木などの自然物を敬い崇めました。世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の霊場「熊野三山」の成立も、自然への畏敬の念がその根底にあります。

現代にまで受け継がれた地質遺産、大地のエネルギーを感じてください。

地質遺産が霊場となる

熊野の霊場と密接に関連する地質遺産の大部分は、「熊野カルデラ」の火山活動によって、マグマから生まれた岩体の一部であるという一つの共通項でくくることができます。

熊野の霊場は、マグマに由来する岩体なくしては成立していません。「神宿る大地」は、マグマの申し子なのです。熊野は、大地のエネルギーが人間のエネルギーに変換される場となっています。

崇拝の対象となったり、熊野参詣道沿いにあって、文化的景観を形づくったりしている地質遺産を見てみましょう。



くさびの雲海(新宮市)



王子ヶ浜(新宮市)



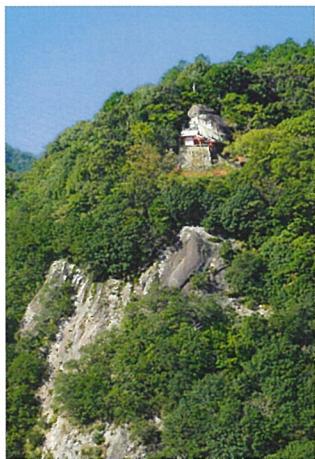
滝行 [陰陽の滝] (那智勝浦町)



わろうだいし
円座石(新宮市)

祭祀の中心となる地質遺産

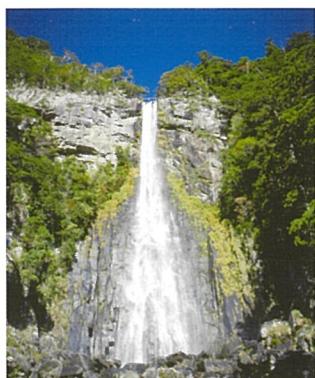
巨石・岩島・岩壁・滝などが崇拝の対象となったもの



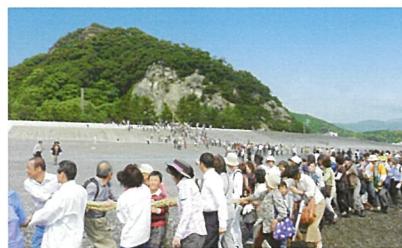
神倉山とゴトビキ岩
(新宮市)



こうちじま (和歌山県古座川町) と河内祭



那智大滝(和歌山県那智勝浦町)



いわや
花の窟とお綱かけ神事 (三重県熊野市)

熊野参詣道となる地質遺産

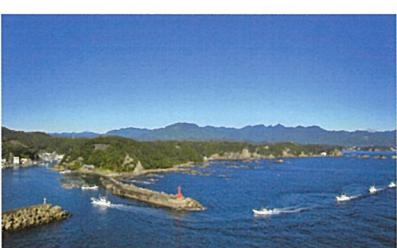
火成岩体の間を抜けたり、越えたりする熊野参詣道となったもの



熊野川



まごせ
馬越峠道 (三重県紀北町)



おおくもとりごえ
大雲取越の山並(周囲より一段高い山塊)

名勝・天然記念物となる地質遺産

際立った自然景観を造り出しているもの



古座川の一枚岩と高池の虫喰岩(和歌山県古座川町)



瀧八丁(新宮市・熊野市・十津川村)



楯ヶ崎(三重県熊野市)

紀伊半島南部・熊野地方の火山活動

約1500万年前、紀伊半島には巨大な火山がありました。多量の大規模火碎流が噴出し、地表が大きく陥没したため、巨大な陥没カルデラが出現しました。南北径40km、東西径20kmのたいへん大きなもので、現在の和歌山県串本町付近から、北は田辺市本宮町～三重県南牟婁郡にまで広がっていました。

長い年月の間に浸食を受けたため、現在、熊野のカルデラ火山の地形は明確には残っておらず、火山の地下であった部分が、地表に露出するに至っています。



東京書籍「社会科新高等地図」1987. を参考に作図

「日本の地質百選」古座川弧状岩脈

熊野カルデラの南縁の地下部分が、地表に現れたもので、火山活動で噴出した火碎流と上昇したマグマが、火道に残ってできた岩脈です。古座川流域では、大爆発によって多量に噴出した火碎流からできた「流紋岩質火碎岩」、その後に上昇してきたマグマからできた「熊野花崗斑岩」が独特的な景観を創り出しています。



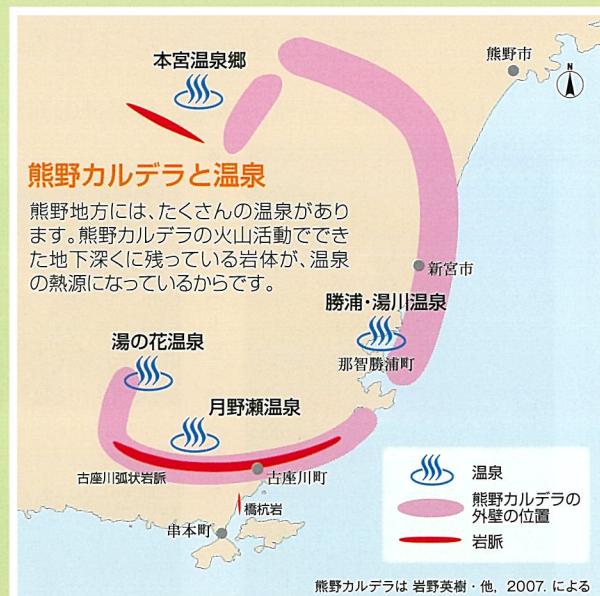
虫喰岩 近景



嶽の森山



岩野英樹・他, 2007. を参考に作図



靈石は遠来の地質遺産

「日本の地質百選」玉置山

「熊野三山」と「吉野・大峯」の靈場を結ぶ「大峯奥駈道」の途上にある「玉置山」には、大きな玉石があり、重要な信仰対象となっています。

玉石は、はるか遠洋の海底火山でできた枕状熔岩であり、海洋プレートとともに移動してきた遠来の地質遺産です。



玉置山の玉石と枕状熔岩(奈良県十津川村)